

第1回

地域のたから 自慢の逸品

プロローグ

仙台市博物館 市史編さん室長 菅野正道

名産品の移り変わり

いま、仙台、宮城の名産品、お土産品と言えば、牛タン、笹かまぼこが双璧でしょう。土産にはしにくいですが、全国有数の米どころとして宮城米の評価も健在です。味噌や日本酒、海産物、農産品、菓子など、全国的に評価の高いものは幾つもあります。

こうした名産品、特産品は、古くからの伝統を今に伝えているものもあれば、比較的最近に急に有名になったものなどいろいろです。

ご存じの通り、牛タンが仙台を代表するような名物になったのは、ここ二〇年くらいのこと。笹かまぼこも、土産品としての評価が高まるのは、戦後に保存技術が発達してからです。いまでは全国的に知られるようになったずんだ餅も、日持ちの問題から、かつては家庭で作るか、町の餅屋・団子屋で枝豆の季節を中心に売られているくらいでした。

時計を戦後の早い時期に巻き戻すと、食品ならば調味噌、工業品なら埋木細工や長靴等のゴム製品の名が見え、さらに戦前にまでさかのぼると、仙台平などの絹織物や、仙台筆筒などを含む指物の名も挙がってきます。

名産品、特産品は時代とともに変わっていくものなのです。

仙台領高名競

江戸時代も後半に入った文政十二(一八二九)年、「仙台領高名競」と名付けられた番付が発行されました。名産品・特産品だけでなく、名所・旧跡や人物も含め、仙台藩領で他の地域にまで名が知られたものを番付風にリストアップしたものです。

この中で、物産としては、「勸進元」として米と乾海鼠・狼河原が挙げられています。これは別格で最も有名なもの、という扱いでしょうか。

米は言うまでもなく、仙台藩領最大の産物で、毎年一〇万石から二〇万石の量が江戸に運ばれ、江戸の台所を支えていました。

一方で、乾海鼠と狼河原はあまりなじみがないかもしれません。乾海鼠はナマコを干したもので、仙台藩領で産出されたものは特に品質が良く、長崎を通じ

て中国へも輸出されていました。また狼河原は登米郡狼河原村(登米市東和町米川)周辺で産出されるタバコの異名です。江戸時代初期から生産が始まった

といい、その品質の良さから「狼河原」と言えばタバコの有名ブランドとして、全国的に知られる存在だったのです。

そのほか、上段には千厩三階(千厩岩手県一関市で作られ

る馬具)と白石紙布(紙製の糸を原料とした織物)の名がみえ、また二段目には葉の原料となる黄連・沢瀉・孫太郎虫、仙台平や金山紬といった絹織物のほか、馬、櫛、萩軸(筆)、金海鼠などの物産の名前が見えています。今でも名前が知られているものもあれば、すでにまったく忘れ去られたものもあるなど、名産品の移り変わりを教えてくれる資料です。

それぞれのストーリー

このように仙台、あるいは仙台藩領では江戸時代から今に至るまで、さまざまな産物が名産品、特産品として生産され、「地域のたから」となり、そのいくつかは姿を消していきました。そうした産物の消長には、それぞれにストーリーが伴っています。時代の流れや技術の進歩、産業構造の変化など、そのストーリーの背景はさまざまです。「地域のたから」にまつわるそれぞれのストーリーを、仙台市博物館のスタッフが毎月一つずつ読み解いて、皆様にご紹介していきます。



仙台領高名競(復刻版 仙台市博物館所蔵)

東日本大震災復興祈念・新潟県中越地震復興10年 一特別展一

法隆寺 祈りとかたち

- 休館日 毎週月曜日 ●開館時間 午前9時～午後4時45分(入館は4時15分まで)
- 観覧料 一般:1,300円、高校・大学生:1,000円、小・中学生:600円
- ※10名以上の団体は100円引き

- 主催/「法隆寺一祈りとかたち」仙台展実行委員会(仙台市博物館、河北新報社、TBC東北放送)、法隆寺
- 特別協賛/清月記 ○協賛/大仲社、富士通
- 特別協力/朝日新聞社 ○協力/日本通運、塩竈港運送

仙台市博物館 TEL:022-225-3074
SENDAI CITY MUSEUM http://www.city.sendai.jp/kyouiku/museum/

国宝 地藏菩薩立像(部分) 法隆寺蔵

